

# 地区の現状と課題等

## 地区

<p>地区の歴史</p>	<p>地区の歴史を裏付ける資料が少なく、S40年代～S50年代にかけ■■町の乗誓寺(1749年、釋良雄中興)の寺宝掛軸から独自の調査をし、歴史を推考した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乗誓寺の掛軸には天明2年壬寅5月7日(1782年)金福寺下 矢橋北村の銘があり、乗誓寺は、金福寺の末寺であったと考えられる。金福寺を興したのは源信僧都であり、楠一門が代々住職を継ぎ、近畿8ヶ国内に780余の道場を有する。また、金福寺末寺といわれている寺院のほぼ6割が被差別部落の中にある。</li> <li>楠一族は、南北朝時代南朝方に忠勤を尽くした。楠正成の子息正行・正時が四條畷の戦いにおいて刺し違えて自害した後、次男・四男・五男・六男は四国の一部と若狭にまで分散し、追っ手から逃れ陰遁生活をした。陰遁生活をつづける中、在所との交流をせず、外部との接触を絶って生活した結果、近世になり身分制度が確立するに従い、被差別部落として位置づけられてきたと思われる。これは金福寺住職坂口真道老師が講演の中でも述べられており、被差別部落生成過程において、自ら外界との交流を避けて、ひたすら隠れ住んだ人々が、やがてその生活形式と言語の違いから、差別されるようになったということもあるとのことであった。</li> <li>金福寺の維持には信徒が労を提供しており、被差別部落の徴用においては、エタ頭による徴用の記述が金福寺に残っているが、エタ頭が■■町を徴用した記述はない。このことから当時■■町が被差別部落として位置づけられていなかったことが推測される。また、金福寺寺宝が乗誓寺に下賜されており、金福寺とは特に深い関係が伺われることから、■■町には、楠一族が陰遁生活をしてきたものと推考される。</li> <li>このように、金福寺の歴史から推考すると、1300年代から1450年代にかけて分散した楠一族が(■■町)に移り住み陰遁生活をした。■■は農耕の適さない河川敷であったが開拓し、矢橋道と北川とに挟まれた土地に池を掘り、上流から水を集めた。さらに、北川の下を通って南側に抜けるトンネルを作った。さらにやや離れた所にもう一つ池を作り農耕の基盤を作り、米作りを営んできた。そのトンネルを作った技術は当時の日本としては最新の技術で、金を掘り出すために用いられた鉱山技術らしい。</li> <li>明治初期の公図によると、地積と世帯数から単純に見積もっても一軒あたり2反の田地があったことが推測される。</li> </ul>																																																																																																																																																
<p>地区の現状</p>	<p>【生活・福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■■町内では、近年地区内および近隣の急激な宅地開発により、混住化が進んで来ている。JR南草津駅前の再開発や、南草津駅まで近距離にあることから、マンションや一戸建て住宅が現在でも建設されている。</li> <li>昭和58年頃に最初に地区内に開発された団地では、建売住宅の構造や家の大きさから、子どもたちが大きくなると家を離れ独立している家庭が多く、高齢者世帯数が多い。また、地区対象者においては、家屋の建て替えもされており、通常2世帯同居も可能であるが、配偶者や子どもの将来も考え結婚を機に町内を離れる傾向があり、転入者同様高齢者世帯が増加している。</li> <li>地域の福祉に関する盛り上がりとしては、ボランティアにより高齢者への弁当作りや配達のサービスが行われている。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="340 1142 577 1255"> <tr> <td>混住化率</td> <td>80.80%</td> </tr> <tr> <td>地域人口</td> <td>1,214人</td> </tr> <tr> <td>地区対象者</td> <td>233人</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="693 1142 1459 1291"> <thead> <tr> <th rowspan="2">高齢化率</th> <th colspan="2">市内</th> <th colspan="2">地域</th> <th colspan="2">地区対象者</th> </tr> <tr> <th>人口</th> <th>率</th> <th>人口</th> <th>率</th> <th>人口</th> <th>率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>20,877 (121,084)</td> <td>17.24%</td> <td>139 (1,214)</td> <td>11.44%</td> <td>64 (233)</td> <td>27.46%</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">高齢者:65歳以上</td> <td colspan="4">22/4/1現在</td> </tr> </tbody> </table>	混住化率	80.80%	地域人口	1,214人	地区対象者	233人	高齢化率	市内		地域		地区対象者		人口	率	人口	率	人口	率		20,877 (121,084)	17.24%	139 (1,214)	11.44%	64 (233)	27.46%		高齢者:65歳以上		22/4/1現在																																																																																																																		
混住化率	80.80%																																																																																																																																																
地域人口	1,214人																																																																																																																																																
地区対象者	233人																																																																																																																																																
高齢化率	市内		地域		地区対象者																																																																																																																																												
	人口	率	人口	率	人口	率																																																																																																																																											
	20,877 (121,084)	17.24%	139 (1,214)	11.44%	64 (233)	27.46%																																																																																																																																											
	高齢者:65歳以上		22/4/1現在																																																																																																																																														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者福祉</li> <li>障害者数が市全体と比べ大変高い。</li> <li>知的障害者では、40歳～60歳代が多い。</li> <li>当時、乳幼児期でのひきつけ・高熱等は、処置としてユキノシタを煎じて飲めば治ると言われていたことから、煎じ薬に頼り医学的な治療が行われていなかったため、繰り返し発作が起きた場合や高熱が続いた場合には脳に障害が起きた可能性がある。</li> <li>併せて、近隣の医院としては矢橋町に1医院あったが、差別が厳しく通院がしにくかったこと。また、夫婦共働きで農業や日雇いの仕事をしていたが、生活に追われて子どもの面倒は、子ども同士の兄や姉にさせ、体調の仔細までわからなかったことがあげられる。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="340 1513 1018 1647"> <thead> <tr> <th></th> <th>一般</th> <th>比率</th> <th>地区対象者</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>身体障害者</td> <td>3,375人</td> <td>2.78%</td> <td>18人</td> <td>7.72%</td> </tr> <tr> <td>知的障害者</td> <td>703人</td> <td>0.58%</td> <td>6人</td> <td>2.57%</td> </tr> <tr> <td>精神障害者</td> <td>325人</td> <td>0.26%</td> <td>1人</td> <td>0.42%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">市内人口 22/3/31 121,084人 地区対象者人口 233人</p>		一般	比率	地区対象者	比率	身体障害者	3,375人	2.78%	18人	7.72%	知的障害者	703人	0.58%	6人	2.57%	精神障害者	325人	0.26%	1人	0.42%																																																																																																																												
	一般	比率	地区対象者	比率																																																																																																																																													
身体障害者	3,375人	2.78%	18人	7.72%																																																																																																																																													
知的障害者	703人	0.58%	6人	2.57%																																																																																																																																													
精神障害者	325人	0.26%	1人	0.42%																																																																																																																																													
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉</li> <li>介護認定状況として、地区対象者の認定者数で地区内認定率・地区対象者の認定率を算出した場合、いずれも市内認定率を上回っている。特に地区対象者の認定率は市内認定率を大きく上回っている。</li> <li>■■町内では開発が進み30代から40代の転入者が増加しているが、建売住宅の建築面積上、2世帯が同居することは難しく、十数年後には順次高齢者世帯となることが予測され、さらに地域全体の高齢化に拍車がかかることが予想される。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="340 1795 1018 1869"> <thead> <tr> <th rowspan="2">要介護認定者</th> <th colspan="2">市内</th> <th colspan="2">地区対象者</th> </tr> <tr> <th>人数</th> <th>率</th> <th>人数</th> <th>率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>2,848人</td> <td>14.20%</td> <td>22人</td> <td>34.37%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※要介護認定者は40歳以上の人数である。認定率は、市内・地区対象者においても65歳以上の人口比である。</p> <p>市内高齢者人口 21/4/1 20,027人 地区対象者高齢者人口 22/4/1 64人</p>	要介護認定者	市内		地区対象者		人数	率	人数	率		2,848人	14.20%	22人	34.37%																																																																																																																																		
要介護認定者	市内		地区対象者																																																																																																																																														
	人数	率	人数	率																																																																																																																																													
	2,848人	14.20%	22人	34.37%																																																																																																																																													
	<p>参考</p> <table border="1" data-bbox="340 1973 1459 2122"> <thead> <tr> <th>人口(H22.4.30住基台帳)</th> <th>233名(1,214名)</th> <th>世帯数</th> <th>85世帯(570世帯)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>持家率(実態調査)</td> <td>80.90%</td> <td>医療保険未加入率(実態調査)</td> <td>2.70%</td> </tr> <tr> <td>公的年金未加入率(実態調査)</td> <td>7.30%</td> <td>未就労率(実態調査)</td> <td>27.30%</td> </tr> <tr> <td>父子世帯数(実態調査)</td> <td>0%</td> <td>母子世帯数(実態調査)</td> <td>1世帯</td> </tr> <tr> <td>生活保護世帯数(H22.03.31)</td> <td>3世帯</td> <td>生活保護対象人数</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>	人口(H22.4.30住基台帳)	233名(1,214名)	世帯数	85世帯(570世帯)	持家率(実態調査)	80.90%	医療保険未加入率(実態調査)	2.70%	公的年金未加入率(実態調査)	7.30%	未就労率(実態調査)	27.30%	父子世帯数(実態調査)	0%	母子世帯数(実態調査)	1世帯	生活保護世帯数(H22.03.31)	3世帯	生活保護対象人数	6人																																																																																																																												
人口(H22.4.30住基台帳)	233名(1,214名)	世帯数	85世帯(570世帯)																																																																																																																																														
持家率(実態調査)	80.90%	医療保険未加入率(実態調査)	2.70%																																																																																																																																														
公的年金未加入率(実態調査)	7.30%	未就労率(実態調査)	27.30%																																																																																																																																														
父子世帯数(実態調査)	0%	母子世帯数(実態調査)	1世帯																																																																																																																																														
生活保護世帯数(H22.03.31)	3世帯	生活保護対象人数	6人																																																																																																																																														
<p>地区の現状</p>	<p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在においては、学力格差は子ども一人ひとりによりばらつきがあるが、全体的傾向として、市内平均を上回っている。学力が劣る子どもについては、家庭的な問題、保護者の子どもへの勉強に対する取り組み等家庭教育での問題がある。また、小学校の児童の1名が毎日通学できない状況がある。</li> <li>差別を見抜き、差別に負けない、差別を許さない子どもの教育に取り組み、差別に直面したときお互い支え合うことができる仲間づくりに重点を置いている。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="430 2300 1365 2700"> <thead> <tr> <th>卒年</th> <th>人数</th> <th>高校進学</th> <th>高校進学率</th> <th>高校中退</th> <th>高校中退率</th> <th>4大</th> <th>4大進学率</th> <th>短大専門学校</th> <th>短大専門学校進学率</th> <th>中学卒業後就職</th> <th>無職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2000</td><td>1</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>2</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2001</td><td>1</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>1</td><td>50.0%</td><td>1</td><td>50.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2002</td><td>1</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2003</td><td>1</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2004</td><td>1</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2005</td><td>3</td><td>2</td><td>66.6%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2006</td><td>1</td><td>0</td><td>0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2007</td><td>2</td><td>1</td><td>50.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2008</td><td>3</td><td>3</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>1</td><td>33.3%</td><td>1</td><td>33.3%</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>2009</td><td>1</td><td>1</td><td>100.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>0</td><td>0.0%</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>2010</td><td>3</td><td colspan="10">(休学中、在学中含む。)</td></tr> </tbody> </table>	卒年	人数	高校進学	高校進学率	高校中退	高校中退率	4大	4大進学率	短大専門学校	短大専門学校進学率	中学卒業後就職	無職	2000	1	1	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0	2001	1	1	100.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0	2002	1	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	2003	1	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0	2004	1	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0	2005	3	2	66.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	2006	1	0	0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0	2007	2	1	50.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0	2008	3	3	100.0%	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%	1	0	2009	1	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0	2010	3	(休学中、在学中含む。)									
卒年	人数	高校進学	高校進学率	高校中退	高校中退率	4大	4大進学率	短大専門学校	短大専門学校進学率	中学卒業後就職	無職																																																																																																																																						
2000	1	1	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0																																																																																																																																						
2001	1	1	100.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0																																																																																																																																						
2002	1	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0																																																																																																																																						
2003	1	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0																																																																																																																																						
2004	1	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0																																																																																																																																						
2005	3	2	66.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0																																																																																																																																						
2006	1	0	0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0																																																																																																																																						
2007	2	1	50.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0																																																																																																																																						
2008	3	3	100.0%	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%	1	0																																																																																																																																						
2009	1	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0																																																																																																																																						
2010	3	(休学中、在学中含む。)																																																																																																																																															

# 地区の現状と課題等

## 地区

平成17年度実力テストの結果

年	教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計
3	学年平均	48.8	46.2	58.6	61	59.6	275
	訪宅対象生平均	44.5	33.5	39.5	49.3	43.5	210
2	学年平均	59.7	60.9	62	46.6	59.7	286
	訪宅対象生平均	3	2	3	3	11	22
1	学年平均	60.5	63.3	60	64.2	62.2	310
	訪宅対象生平均	41	25	26.5	26	24.5	143

平成18年度実力テストの結果

年	教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計
3	学年平均	54.8	58.6	47.2	41.9	53	255.2
	訪宅対象生平均	10.5	10.0	8.0	16.0	18.5	63.0
2	学年平均	61.9	50.9	60.1	64.6	52.3	286.7
	訪宅対象生平均	31.5	22.3	14.7	28.6	16.5	113.6
1	学年平均	66.8	58.1	55.2	61.1	50.0	291.3
	訪宅対象生平均	54.5	60.3	53.3	48.3	39.5	260.1

平成19年度実力テストの結果

年	教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計
3	学年平均	58	65	59.7	64.4	61.3	303.4
	訪宅対象生平均	31	34	26	34	28	153
2	学年平均			詳細は不明			301.9
	訪宅対象生平均						272
1	学年平均	62.7	56.5	67.4	66.8	66.8	320.2
	訪宅対象生平均	60	94	66	66	71	357

平成20年度実力テストの結果

年	教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計
3	学年平均	60.4	61.7	44.6	55.8	60.9	283.4
	訪宅対象生平均	54.7	44.7	32	47	51	229.3
2	学年平均	60	57.9	58.4	58.2	47.8	282.3
	訪宅対象生平均	34	56	21	48	20	179
1	学年平均	65.4	62.3	70.8	67.8	39.3	305.6
	訪宅対象生平均	77.5	97	93.5	92	60.5	420.5

平成21年度実力テストの結果

年	教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計
3	学年平均	37.9	61.9	51.5	57.7	53.8	262.9
	訪宅対象生平均	32	52	42	51	38	215
2	学年平均	53.7	43.3	62.3	58.7	61.5	279.6
	訪宅対象生平均	59	86	94.5	91.5	93	424
1	学年平均	48.2	56.5	57.5	54.6	58.8	275.6
	訪宅対象生平均	33.4	36	35	36.6	40.6	181.6

### 就 労

- ・生活の安定や子どもに教育をつけさせるためにも就労が大切であることへの認識は高い。
- ・就労率は一般地区に劣るがその要因は病気によるものが多数を占める。
- ・職种的には現業職・サービス業が中心であるとともに、中小零細企業への就労が多い。
- ・正社員数は少なく、パート・臨時職員が多く、その結果国保加入率、国民年金加入率が高く、老後の生活安定には結びつきにくい状況がある。
- ・また、世帯の年収も400万円未満が多数を占め、中でも100万円～300万円台に集中している。また、高齢者によっては年金収入も少なく、働かざるを得ない状況もある。

	就労状況		就労形態		就労率	就労率と不就労要因	保険・年金		世帯の収入		
	現業職	サービス業	正社員	パート等			国保加入	国年加入	世帯100～300未満	世帯400万円未満	世帯400万円以上
一般	15%	12.10%	60.10%	27.10%	73.70%	6.70%	27.10%	24.20%	17%	31.60%	65.50%
地区対象	25.30%	22.80%	48.10%	32.90%	71.80%	23.30%	42.70%	30.90%	52.80%	68.20%	25.50%

地域福祉と人権のまちづくり総合実態調査より

### 【その他】

施設の利用者 改築前 13,256人(H19年度)  
改築後 14,969人(H20年度)12%増

### 利用状況

年次	利用総数		利用者内訳		対 比
	利用件数	利用人数	町内	町外	
平成19年度	417	13,256	11,461	1,795	15.66%
平成20年度	444	14,969	13,113	1,856	14.15%
前年比増減	106.47%	112.92%	114.41%	103.40%	

### 改築後の地区外の方の利用状況について

- ・第2種福祉施設として従来の業務を受け継ぎながら、事業展開の範囲を近隣から学区に広げた。
- ・学区の各種団体と町単位組織や草津市に登録されている社会教育団体・社会福祉団体への利用を呼びかけ交流の促進を図ったことにより、貸館利用者の増加並びに館事業である各種講座事業への参加者が徐々に増えてきている。

### 地区の課題

#### 【生活・福祉】

- ・近隣の急激な宅地開発により、混住化が進行している。地区内には、高齢者の単独世帯や高齢者夫婦、知的障害者の割合が高くなっている。また、過去の宅地開発により建設された一戸建て団地では子どもが大きくなり、2世帯住宅でないことから高齢者のみが生活している状況である。10数年後、あるいは現在建設中の住宅においても、将来的には高齢者のみの世帯になることが推測されることから、新旧住民が交流を深め地域全体が支え合う取り組みが必要と思われる。
- ・知的障害者の方には、現在高齢者の両親や高齢者の単身の親族と同居しており、その人が亡くなった時の日常生活や社会生活を営むことが難しくなることから、個々にあった方策を検討する必要がある。

#### 【教育】

- ・低学力や長期欠席の児童・生徒については、会館や校園所が引き続き連携し、課題解決に向け取り組む必要がある。また、町内の状況として、混住化が進んでいることで、保護者の同和問題や同和教育に対する意識の差があり、会館事業や集会所事業で積極的な啓発を今後も行っていく必要がある。

#### 【就労】

- ・就労実態として、正社員としての雇用が少ない。正社員化が図れなければ、生活の安定や子どもの教育にも影響が生じる。特に子どもの学力については、世帯の収入と子どもの学力が比例している結果もある。また、老後の生活にも影響を及ぼし、扶養する家族への負担も多額になり、家庭としての貧困にもつながる。

### その他

#### 【その他】

- ・会館の講座の工夫や施設の利用が一層図れる事業の展開をし、地区住民と一般住民との交流を更に深めていく必要がある。このことから、部落差別に対する偏見を取り除き、部落差別の解消を図っていく必要がある。